

# 『もう怖くない！心房細動の抗凝固療法』（第1版第1刷）

## 正誤表

本書において下記の通り記載内容について誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

●p. 51 「表1 日本の心房細動コホートにおけるリスク因子の内訳」

誤

リスク因子	ハザード比	95% 信頼区間
年齢（歳）		
<65	対照	
65~74	1.12	0.53~2.37
≥75	2.31	1.18~4.52
女性	1.07	0.65~1.76
高血圧	1.69	1.01~2.86
糖尿病	1.18	0.64~2.15
脳梗塞またはTIA	3.25	1.86~5.67
心不全	0.86	0.45~1.65
冠動脈疾患	0.52	0.22~1.26
抗血小板薬の使用	1.42	0.86~2.32

?

正

リスク因子	ハザード比	95% 信頼区間
年齢（歳）		
<65	対照	
65~74	1.12	0.53~2.37
≥75	2.31	1.18~4.52
女性	1.07	0.65~1.76
高血圧	1.69	1.01~2.86
糖尿病	1.18	0.64~2.15
脳梗塞またはTIA	3.25	1.86~5.67
心不全	0.86	0.45~1.65
冠動脈疾患	0.52	0.22~1.26
抗血小板薬の使用	1.42	0.86~2.32

誤

	ワルファリン	ダビガトラン	リバーロキサバン	アピキサバン	エドキサバン
血栓症少ない	—	○ (150 mg)			
頭蓋内出血少ない	—	○ (110 mg)		○	○
消化管出血少ない		× (150 mg)	×		× (60 mg) ○ (30 mg)
コスト	○ <sup>※1</sup>	× <sup>※2</sup>			
1日1回			○		○
使い勝手, 特徴	人工弁, 僧帽弁狭窄症に適応 食品, 薬剤の影響 モニター必要	腎機能良好なほど効果あり 中和薬あり (2017年3月時点)	リアルワールドエビデンスが豊富 最も剤形が小さい	腎機能低下例でも出血が少ない	出血が少ない (特に 30 mg)

※1 3割負担で月 200~300 円.

※2 3割負担で月 4,000~5,000 円.

正

	ワルファリン	ダビガトラン	リバーロキサバン	アピキサバン	エドキサバン
血栓症少ない	—	○ (150 mg)			
頭蓋内出血少ない	—	○ (110 mg)		○	○
消化管出血少ない	≡	× (150 mg)	×		× (60 mg) ○ (30 mg)
コスト	○ <sup>※1</sup>	× <sup>※2</sup>			
1日1回	○		○		○
使い勝手, 特徴	人工弁, 僧帽弁狭窄症に適応 食品, 薬剤の影響 モニター必要	腎機能良好なほど効果あり 中和薬あり (2017年3月時点)	リアルワールドエビデンスが豊富 最も剤形が小さい	腎機能低下例でも出血が少ない	出血が少ない (特に 30 mg)

※1 3割負担で月 200~300 円.

※2 3割負担で月 4,000~5,000 円.

●p. 142 「表 2 NOAC の減量基準と禁忌 (各薬剤添付文書より)」

誤

一般名		ダビガトラン	リバーロキサパン	アピキサパン	アピキサパン
製品名		プラザキサ	イグザレルト	エリキュース	リクシアナ
用量		150 mg×2 110 mg×2	15 mg×1 10 mg×1	5 mg×2 2.5 mg×2	60 mg×1 30 mg×1
減量基準*		下記の 1 つ以上 ・ CrCL30 ~ 50mL/分 ・ P 糖蛋白阻害薬 ・ 70 歳以上 ・ 消化管出血の既往	・ CrCL15 ~ 30mL/分	下記の 2 つ以上 ・ 80 歳以上 ・ 60 kg 以下 ・ Cr1.5 mg/dL 以上	下記の 1 つ以上 ・ 60 kg 以下 ・ CrCL15 ~ 50mL/分 ・ P 糖蛋白阻害薬 (キニジン, ベラパミル, エリスロマイシン, シクロスポリン)
減量を考慮する併用薬		上記 P 糖蛋白阻害薬 (ベラパミル, アミオダロン, キニジン, タクロリムス, シクロスポリン, リトナビル, ネルフィナビル, サキナビル)	フルコナゾール クラリスロマイシン エリスロマイシン	アゾール系抗真菌薬 HIV プロテアーゼ阻害薬	アジスロマイシン クラリスロマイシン イトラコナゾール ジルチアゼム アミオダロン HIV プロテアーゼ阻害薬
禁忌** (主要なもの)	薬剤	イトラコナゾール (経口)	アゾール系抗真菌薬 (フルコナゾール除く) HIV プロテアーゼ阻害薬	なし	なし
	腎機能 (CrCL)	30 mL/分未満	15 mL/分未満	15 mL/分未満	15 mL/分未満
	肝機能	なし	Child-Pugh 分類 B, C	なし	なし

\*ダビガトランのみ, 添付文書上の「使用上の注意」に該当. それ以外は「用法及び用量」に該当.

\*\*禁忌事項はその他もあるので添付文書で確認のこと.

一般名		ダビガトラン	リバーロキサパン	アピキサパン	アピキサパン
製品名		プラザキサ	イグザレルト	エリキュース	リクシアナ
用量		150 mg×2 110 mg×2	15 mg×1 10 mg×1	5 mg×2 2.5 mg×2	60 mg×1 30 mg×1
減量基準*		下記の 1 つ以上 ・ CrCL30 ~ 50mL/分 ・ P 糖蛋白阻害薬 ・ 70 歳以上 ・ 消化管出血の既往	・ CrCL15 ~ <b>49</b> mL/分	下記の 2 つ以上 ・ 80 歳以上 ・ 60 kg 以下 ・ Cr1.5 mg/dL 以上	下記の 1 つ以上 ・ 60 kg 以下 ・ CrCL15 ~ 50mL/分 ・ P 糖蛋白阻害薬 (キニジン, ベラパミル, エリスロマイシン, シクロスポリン)
減量を考慮する併用薬		上記 P 糖蛋白阻害薬 (ベラパミル, アミオダロン, キニジン, タクロリムス, シクロスポリン, リトナビル, ネルフィナビル, サキナビル)	フルコナゾール クラリスロマイシン エリスロマイシン	アゾール系抗真菌薬 HIV プロテアーゼ阻害薬	アジスロマイシン クラリスロマイシン イトラコナゾール ジルチアゼム アミオダロン HIV プロテアーゼ阻害薬
禁忌** (主要なもの)	薬剤	イトラコナゾール (経口)	アゾール系抗真菌薬 (フルコナゾール除く) HIV プロテアーゼ阻害薬	なし	なし
	腎機能 (CrCL)	30 mL/分未満	15 mL/分未満	15 mL/分未満	15 mL/分未満
	肝機能	なし	Child-Pugh 分類 B, C	なし	なし

\*ダビガトランのみ、添付文書上の「使用上の注意」に該当。それ以外は「用法及び用量」に該当。

\*\*禁忌事項はその他もあるので添付文書で確認のこと。